

その2

個別の指導計画と
年間指導計画の
機能的な活用を目指して

研究目的

目的 ①

個の課題を焦点化する視点

- 「感覚と運動の高次化理論」の「発達診断評価」を活用した実態把握
- 自立活動の6区分からの「課題関連図」の作成

目的 ②

学校として教えるべき教育内容を明確化する視点

- 桐が丘作成の「発達系統表」を用いて、授業のねらいに根拠を持たせる

「感覚と運動の高次化理論」

個の課題の焦点化

- ケース会議
発達診断評価の実施
- 自立活動の6区分
「課題関連図」の作成

学校として教えるべき教育内容の明確化

- 生きる力の五要素
- 育てたい力
- 「発達系統表」の活用

「指導仮説」の設定

ねらいの焦点化

校内授業研究会

「個別の指導計画」と「年間指導計画」の連動

対象生徒・対象授業

対象生徒

- 中学部2年男子
- 障害名：虚血性脳症による脳原性運動機能障害（両上肢障害及び移動機能障害）
- 知的代替の教育課程（指導の形態：領域・教科を合わせた指導が中心）を履修

対象授業

- 作業学習（学部全体をねらい別・縦割り・3つの学習グループで編成／週1単位時間）

カードを握る



ひもを引っぱる



けん引機 の 操作

